



若手の好奇心に火をつけることで、
組織の生産力は高まっていく。

ベテランの職人が定年退職したことで、加工機を扱える技能者が少なくなり、社内の旋盤を持て余していた同社。「かさむ外注費を抑え、自社内での生産を増やしていきたい…」と考えていたときに知ったのが、このマイスター制度でした。中小企業の多くが抱える悩みを解消した好事例を紹介します。

ものづくりマイスター派遣先企業

■ 四国工業 株式会社

所在地	徳島県板野郡藍住町東中富字北傍示2-9	従業員数	26名
事業内容	スラッジカット(微細スラッジ分離装置)、 精密部品洗浄機、研削液濾過機の製造販売	設立年	昭和43年
		資本金	1000万円



持て余した加工機を、有効活用する。

「私たちが、〈ものづくりマイスター〉の派遣をお願いした理由。」

参考書やネットにも載っていない、
“生きた知恵と技”を、盗んでもらいたい。

当社は創業から50年。ベテランの職人たちが引退し、現場には若手技能者も多くなり、技能レベルの低下を心配していました。大きな投資をして揃えた旋盤も、あまり使われることなくホコリを被っていました。旋盤を使った加工もよく発生するのにも関わらず、自らやってみようとする手も少なく、ほぼ100%が外注へ加工依頼…。こんな状況をなんとかしたいと思っていたときに、たまたまマイスター制度を知りました。私が期待したのは、若手社員のモチベーションの向上です。マイスターの熟練された手さばきとあらゆる知識、何よりも仕事に向き合う熱量を感じとってほしかった。やっぱりそういった“職人のすごさ”みたいなものって、生でしか感じられないじゃないですか。本やパソコンでは得られないものがあるから、このマイスター制度は価値があるのだと思っています。実際、参加してくれた若手技能者は、積極的に加工作業を行うようになり、この2年間で内製率が40%近くにまで上がりました。



四国工業 株式会社
取締役専務 前野敦史さん

■ 実施したカリキュラム

指導の概要

実施回数：2回 受講者数：1名(他企業含め全5名)
実施場所：徳島職業能力開発促進センター



プログラム内容

1回目 旋盤の基礎知識／加工実習

2回目 旋盤での加工実習

💡 教育プログラムの解説

2日間にわたって、課題を用いての実習を行います。プログラム内容は、〈芯出し→端面加工→外径加工→ドリル加工→内径加工→テーパ加工→偏心加工→刃先の調整〉など、基礎的なことをひと通り網羅。まずはマイスターが手順を実演し、それを見てから受講生が加工をします。課題の製作物をきれいに作り終えることが目的ではなく、実技を行う中でいつでも質問可能にし、受講生それぞれが聞きたいことを、マイスターから気軽に教えてもらえる場になっています。

座談会 INTERVIEW

ものづくりマスター × 若手技能者
「実技指導を通して、こんなことを学びました。」

ものづくりマスター (写真_右)

河野 元一さん

昭和23年生まれ
昭和56年度 1級技能士「機械加工(普通旋盤作業)」取得
平成12年度 徳島県「機械マスター」認定
平成25年度 厚生労働省 ものづくりマスター「機械加工」認定

50年近くこの業界に携わり、加工技能を追究し続けてきた大ベテラン。定年前の10年ほどは研究開発職も務めてきた。長年現場で培ってきた豊かな経験を活かした引き出しの多さで、技能の面白さと知識を、これからの若者たちに伝えています。

正解はないから、 経験こそが道になる。

河野さん 私は機械加工の現場で40年くらい、研究開発で10年くらい仕事をしてきました。特に大手食品メーカーからの依頼を受けて、食品を充填する機械など設計・製造に携わることが多かったですね。

佐藤さん すごい!もう半世紀近いキャリアですね。具体的にはどんなものをつくっていたんですか?

河野さん みなさんに身近な、牛乳・乳酸飲料・ヨーグルトなどの中身を充填する機械ですね。同じ商品でもメーカーさんごとに容器やフタの形状・素材がまったく違う。それぞれに合わせた機械をつくるのは、難しいんですよ。新商品は納期も迫っていて、その中で最適な加工方法を考え、すぐに作業を実践していくのは大変でした。

佐藤さん 同じものを生産するならば話は早いかもしれませんが、毎回、違うものをつくるのは大変そうですね。

河野さん けれども振り返ってみると、こういった多種多様なオーダーに応え続けていくことで、私の知識と技能は磨かれたのだと思います。機械加工の面白さであり大変さでもあるのは、これ

といった正解がないこと。だからこそ、できるだけ多くの製品加工を経験し、その検証結果を、自分の中にストックしていくことが重要。現場での学びこそが、迷ったときに進むべき道を示してくれるのだと思います。



指導＝教わる場ではなく、 答え合わせの場には。

佐藤さん 僕の仕事は組立てがメイン。普段はめったに機械加工はせずに、主に外注しています。なので、これまでは自己流でやってきました。やっぱり自分で旋盤やフライス盤を使っているだけだと不安なんです。今回は、その答え合わせをするつもりで実技指導に参加しました。

河野さん いい心掛けですね。私もマニュアルに沿って教えるというより、その人その人がわからない部分、知りた

受講した若手技能者 (写真_左)

佐藤 大介さん | 平成17年入社

いろいろな技能を貪欲に学ぶ、若手のホープ。今回の実技指導を通して、さらにものづくりの面白さを知る。「いつかは自宅に旋盤がほしいなあ」と笑う、現場のムードメーカー。

い部分をポイントに教えるようにしています。特にマスターとして受講生の方に絡む時間はわずかなものですから。技能のすべてを伝えるのは難しい。何か目的をもって来ていただいたほうが、有意義な時間になることは間違いないでしょう。

佐藤さん 今回、参加してわかったのは、意外にも加工手順や所作は大きく間違っていなかったこと。「あれ、案外いけるじゃん!」と少し自信になりました(笑)。ただ、刃先の高さを合わせる調整方法や四つ爪を使った加工については、初めて知ることが多かったですね。本当なら、毎日でも河野マスターに教えてもらいたいくらい。

河野さん 先程もお伝えしたとおり、機械加工は経験こそがすべて。できる限り多くの製品を加工し、その都度、わからないことをクリアしていけば、自ずと実力がついてくるはずですよ。



持て余した加工機を、有効活用する。



もっと知りたい、上手になりたい。
究めようとする心こそが、技能者の力。

好きなら好きなほど、 得をする世界。

佐藤さん 2年ほど前までは、外注加工がほぼ100%だったのを、今では40%近くまで内製で行えるようになりました。できることが増えるのは、何よりも楽しいです。実際に僕も入社当時は溶接からスタートし、組立て業務を経て、今ではこうして機械加工を覚えるまでに視野も広がってきました。

河野さん 技能を育てるのは、本人の好奇心。私も70歳近くになりますが、いまだに学びは尽きません。マスターになったことで、毎度いろいろな企業や

学校を回るの、その都度、「どうやって指導するのがいいの?」と頭を悩まして、勉強させてもらっています。

佐藤さん さっきもちょっと旋盤をさわりながら教えてもらったとき、目が輝いていましたよね(笑)。僕も負けないう、どんどん新しい技能にチャレンジしたい。結果的に、それが会社の利益にもつながっていくと思いますので。近いうちには、自社内ですべての加工ができるようにするのが目標です。

河野さん この世界で生きていくには、学び続けたい先はない。だからといって窮屈にやるのではなく、自ら探究心をもって挑んでほしいですね。そのため

にも、目の前にある仕事を好きになること。熱中してやっているうちに、技能はあとからついてきますから。

